

『東海第2原発再稼働STOP!! 茨城県大集会』にお集まりください!! わたしたちは集会に賛同します

五十嵐 立青(つくば市長) 今泉 文彦(石岡市長) 島田 稔一(小美玉市長) 原 浩道(潮来市長)
海野 徹(那珂市長) 染谷 森雄(五霞町長) 中島 栄(美浦村長)
原中 勝征(元日本医師会会長、医療法人大圃病院理事長)
佐藤 洋一(茨城県生活協同組合連合会会長理事)
県北地区農業協同組合協議会
斉藤 功(茨城県畜産農業協同組合連合会 代表理事会長)
藤田 宏之(奥久慈茶業組合長) 荒木 準人(坂東市茶業組合長)
原口 弥生(茨城大学人文社会科学部教授) 蓮井 誠一郎(茨城大学人文社会科学部教授)
渋谷 敦司(茨城大学人文社会科学部教授)
佐藤 嘉幸(筑波大学人文社会系准教授) 伏屋 淑子(社会福祉法人淑徳会理事長)
村上 達也(脱原発をめざす首長会議世話人)

～集会開催にあたって～

東海村にある**日本原電・東海第二発電所**が**再稼働**するか、**廃止**となるか岐路にきております。

原発の再稼働はこの地に今生きている人も**子どもたちの未来**にとっても、大きな災厄を抱え込むことにほかなりません。福島第一原発事故で明らかになったように、その災厄は、避けられない過酷事故の発生と大地と海洋の放射能汚染、人をはじめとする生き物の放射線被ばくであり、結果としての**国土の喪失、ふるさと喪失**です。

「安全、コストが安い、クリーンエネルギーという原発の三大スローガンは完全にウソ」
この間の体験によって分かりました。これは4月14日に水戸市で講演された小泉純一郎元総理の強調されている言葉でもあります。

さらに東海第二原発は**高い人口密度**を持つ地域に立地し、**首都圏に一番近い原発**です。ひとたび事故が起これば、被ばくなしで**避難はできない**し避難先に長くとどまることはできません。**首都は壊滅**です。広域避難はできないと、誰しも思っています。

東海第二原発の立地地域には放射性物質・放射性廃棄物を抱えた多くの事業所があり、もつとも危険な高レベル放射性廃液を溜め込んだ東海再処理工場が近接しており、その複合災害を想像しなくてはなりません。安全対策費の資金が自前で調達できないなど、経理的基礎のない日本原電に事故があったときの**損害賠償など望むべくもない**でしょう。

ここに住む人たちが「**再稼働にNO!**」の声を上げましょう!!
東海第二原発の再稼働を止めましょう!!



STOP!! Restarting Nuclear Power Plant in IBARAKI, Tokai.